

地域におけるスポーツ振興の現状と課題

大 隈 節 子

A study of the present condition and the subject of sport promotion in the community

Setsuko OKUMA

1. はじめに

わが国のスポーツ振興は、スポーツの高度化のみのレベルで考え「グラスツール」としてスポーツ愛好家の量的拡大が求められていた 1960 年代から、地域を中心とした愛好的なスポーツクラブがスポーツの高度化とは分裂した形で行政を主導に組織化されはじめた 1970～80 年代を経て、1990 年代以降においては地域の生活に根ざし、「スポーツの高度化」と「スポーツの大衆化」の良さを生かし合う連峰型の体制づくりと生涯スポーツの振興が奨励されている¹⁾。

21 世紀のスポーツ振興指針として 2000 年に制定されたスポーツ振興基本計画²⁾では、2006 年の改定を経て①スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上、②地域におけるスポーツ環境の整備充実、③国際競技力の総合的な向上の 3 つの課題が掲げられており、これまでにそれぞれの課題達成に向けた取り組みが展開されてきた。

中でも課題の 1 つである「地域におけるスポーツ環境の整備充実」に向けた取り組みとしては、生涯スポーツ社会の実現のため、できるかぎり早期に「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率が 50 パーセントとなること」が目指されており、目標達成のために必要不可欠である施策として 2010 年までに全国の各市区町村において少なくとも 1 つは総合型地域スポーツクラブを育成する、また各都道府県において少なくとも 1 つは広域スポーツセンターを育成することが求められている。

しかし、これらの施策展開が単に行政によるノルマ達成のための枠組みづくりに終わってしまうのであれば、市民のよりよいスポーツライフの提供につながっていく可能性は非常に低いといってよいだろう。

これからのスポーツプロモーションの展開について、佐伯³⁾は単に即自的なスポーツ要求に対応する施策だけに留まらず、市民社会における生活課題の解決への貢献と、人間的成熟への文化的可能性に基づくスポー

ツの意味・価値・理念を基盤としながら、社会変化の中で見通される自然成長的なスポーツの発展をその文化的・公共的意義によって政策的・戦略的に制御することを目的として構想し、展開されなければならないと述べている。まさにこれらのスポーツ振興施策に対する展開の真価は地域住民の生涯スポーツ実現に向けたスポーツライフの拡大へとつながるかどうかであり、市区町村レベルでの展開を考える場合には、地域の生活課題に対応しつつ、住民のスポーツ需要を多面的に検討することが必要である。

そこで本研究では、三重県 K 市市民へ実施した「スポーツに関する意識調査」を参考に、地域住民のスポーツライフの現状と課題を明らかにし、よりよいスポーツ振興に向けたアプローチについて検討することを目的とする。

2. K 市の概要

三重県の北部に位置し、平成 16 年に 1 市 2 町が合併して発足。面積 136.6 平方キロメートル、人口約 14 万人の都市である。江戸時代から東海道五十三次の宿場町として栄え、現在でも年間約 700 万人の観光客が訪れる県内でも有数の観光都市といえる。市内は 9 つの中学校区に分かれており、体育館等の学校の施設開放を行っていると共に、市内には野外・屋内併せて 18 か所 (37 種目) の公共スポーツ施設がある。しかし、平成 20 年 3 月時点で県内 19 市町中、17 市町には創設予定中のクラブを含めて 50 のクラブがある一方で、K 市を含めた 2 市においては、総合型地域スポーツクラブが未設立の状況である。H 20 年度の段階において、スポーツ振興基本計画に掲げられている目標の達成にむけ、スポーツ振興の在り方について検討を進めている段階にある (H 22.2 月時点で 1 クラブが創設済)。

3. 全体調査概要

1) 調査目的

K 市内に在住する市民の運動やスポーツに対する意識や活動の実態について把握することを目的として実施された。

2) 調査の設計

①調査地域 K 市全域

②調査期間 平成 19 年 10 月 1 日～31 日

③調査対象 桑名市内在住の満 20 歳以上

④調査方法 郵送による配布・回収

⑤配布数 3,002 部

⑥調査内容

- ・健康面の現状について
- ・生活面の現状について
- ・運動やスポーツとのかかわりについて
- ・運動・スポーツ施設について
- ・地域におけるスポーツ活動について
- ・体育・スポーツ事業について

3) 回収結果

層化無作為抽出法調査対象者 3,002 人にアンケート調査用紙を送付した結果、回収数は 1,189 部、回収率は 39.6%であった。また、この中から対象者の特性に関連する項目に対して回答のないもの（98 部）は除外し、分析に有効な調査用紙は 1,091 部（36.3%）であった。

4) 調査対象者の属性

全体調査における対象者の特性は以下の通りである。

表 1 全体調査のサンプル属性と主な調査結果

		n	%			n	%
性別				運動実施率			
	男 性	487	44.6	週 1 回以上		441	40.4
	女 性	604	55.4	週 1 回未満		621	56.9
			システム欠損値		29	2.7	
年 代	20 代	100	9.2				
	30 代	192	17.6	総合型クラブへの関心			
	40 代	168	15.4	かかわりたい	602	55.2	
	50 代	251	23.0	かかわりたくない	417	38.2	
	60 代	241	22.1	システム欠損値	72	6.6	
	70 代以上	139	12.7				
居住年数							
	1 年未満	27	2.5				
	1～2 年	40	3.7				
	3～4 年	58	5.3				
	5～9 年	121	11.1	合計	1091	100.0	
	10～20 年	220	20.2				
	21 年以上	625	57.3				

5) 分析方法

本研究では上記の調査で得た市民調査のデータについて、特に地域住民の「スポーツ実施状況」に着目し、独立変数として運動・スポーツの「週 1 回以上の実施」群と「週 1 回未満の実施」群に分けた上で、住民の運動・スポーツの環境や意識の現状に関する調査項目に有意差が得られた内容をもとに比較検討を行う。

4. 調査結果

1) 属性について

スポーツ実施率について、属性ごとに「週 1 回以上」と「週 1 回未満」に分けて比較してみると性別において男女ともに「週 1 回未満」の割合が多く、特に男女の比較では女性の割合の方が 61.3%と男性の 54.9%より多い。

年代別にみると、若年層において「週 1 回未満」の割合が多く、年代が高くなるにつれ、「週 1 回以上」群の割合が高くなり、また両群の割合は徐々に差がなくなっていくことがわかる。

また、家庭内の仕事状況については、「共に働いていない」において「週 1 回以上」の割合が 5 割を上回っていることがわかる。

表 2 属性について (%)

		スポーツ実施率		
		週 1 回以上	週 1 回未満	合計
性別	男性	45.1	54.9	100.0
	女性	38.7	61.3	100.0
		P<.05		
年代別	20 代	33.0	67.0	100.0
	30 代	33.3	66.7	100.0
	40 代	36.7	63.3	100.0
	50 代	40.5	59.5	100.0
	60 代	51.3	48.7	100.0
	70 代以上	50.4	49.6	100.0
	P<.001			
仕事状況別	共働きである	39.9	60.1	100.0
	一方が働いている	40.0	60.0	100.0
	共に働いていない	54.1	45.9	100.0
		P<.01		
学区への親しみ別	非常に親しみがある	49.6	50.4	100.0
	親しみがある	44.2	55.8	100.0
	あまり親しみがない	37.2	62.8	100.0
	親しみがない	30.4	69.6	100.0
		P<.01		

学校区への親しみについては、親しみがある人の方が、「週1回以上」の割合が高く、親しみがない傾向の人ほど「週1回未満」の割合が高くなっていることがわかる。

2) 健康面について

表3-1は、健康面に関する各項目について、「週1回以上」と「週1回未満」の各群で100%となるように示されている。これをみると、健康感については「週1回以上」群の「健康である」割合の方が多いものの、「週1回未満」群ともに「非常に健康である」「健康である」が併せて7割以上であることが分かる。

健康への心がけについては、「週1回以上」群において「いつでも心がけている」「心がけている」を合わせると90.0%となり、「週1回以上」群のほとんどが健康に対して留意していることがわかる。また、一方で「週1回未満」群においてその割合は64.4%であった。

表 3-1 健康面について (%)		
	スポーツ実施率	
	週1回以上	週1回未満
健康感		
非常に健康である	11.2	9.8
健康である	70.3	63.4
あまり健康ではない	16.4	22.0
健康ではない	2.1	4.8
合計	100.0	100.0
	P<.01	

表 3-2 健康面について (%)		
健康への心がけ		
いつでも心がけている	26.0	10.2
心がけている	64.0	54.2
あまり心がけていない	10.0	33.3
心がけていない	0.0	2.3
合計	100.0	100.0
	P<.001	

表3-3 健康維持のために心がけていることについてその内容をみると、両群ともに「食生活に気をつける」の割合が最も多い。また、「週1回以上」群においては、二番目に「運動やスポーツをする（21.0%）」があがっており、健康維持の目的のためにスポーツを実践している人の割合が多いことがわかる。

一方、「週1回未満」群においては、二番目に「睡眠や休養をよくとる」があがっており、「運動やスポーツをする」については3.0%弱という結果であった。また、運動不足感については、両群ともに「運動不足である」を選択している割合が思いのほか多く、特に「週1回未満」群においては8割以上の人が運動不足を認識している結果であった。

表 3-3 健康面について (%)

健康維持のために心がけていること		
食生活に気をつける	59.0	60.6
睡眠や休養をよくとる	11.9	21.4
運動やスポーツ（体操や散歩を含む）をする	21.0	2.8
日常生活の行動に気を使っている（できるだけ車を使わない、階段を使うなど）	2.1	2.3
規則正しい生活をする	4.9	7.0
酒、たばこなどの嗜好品をひかえる	0.8	2.1
健康補助食品（健康ドリンクやサプリメントなど）を摂取している	0.3	3.4
その他	0.0	0.5
合計	100.0	100.0
	P<.001	
運動不足感		
運動不足ではない	17.4	3.0
あまり運動不足ではない	36.3	12.5
運動不足である	42.1	57.7
非常に運動不足である	4.2	26.8
合計	100.0	100.0
	P<.001	

3) 生活面について

表4-1は、生活面に関する項目について「週1回以上」群と「週1回未満」群ごとに回答を比較したものである。平日の余暇時間について比較すると、両群とも余暇時間は短い傾向がみられるが、とくに「週1回未満」群の方は「1時間未満」の割合が30%以上と高いことがわかる。

また、休日の場合は、両群とも「6時間以上」の割合が20%以上と最も高い。両群間で比較をすると「6時間以上」の余暇時間が取れる割合は「週1回未満」群の方が多い一方で、「1～2時間未満」の割合も多いことがわかる。

平日の余暇時間帯については、両群ともに「夜間」を選択した割合が最も高いが、両群の比較からは「週1回未満」群の方が「夜間」の時間帯を余暇時間として使用できる割合が高い事がわかる。また、他の時間帯比較からは「週1回以上」群の方が、午後の時間帯にも余暇時間をとれる人の割合が高いことがわかる。

表4-2の平日の余暇時間の過ごし方については、両群ともに「テレビ・ビデオ・CDなどの視聴」の割合が高く、特に「週1回未満」群においては、43.1%と高い割合を示している。また、「週1回未満」群においては「睡眠・仮眠・昼寝」など生理的に必要な時間として過ごしている割合が比較して高い結果であった。

平日の余暇時間に運動・スポーツなどでからだを動かす活動（「散歩」、「体操・ジョギング・軽運動」、「ゲートボール・スキー・テニス・野球・ゴルフ」な

表 4-1 生活面について (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
余暇時間 (平日)		
1 時間未満	18.4	30.5
1～2 時間未満	25.1	26.3
2～3 時間未満	21.7	17.6
3～4 時間未満	15.5	9.0
4～5 時間未満	7.4	5.2
5～6 時間未満	4.1	3.4
6 時間以上	7.9	8.1
合計	100.0	100.0
	P<.001	
余暇時間 (休日)		
1 時間未満	6.0	6.7
1～2 時間未満	6.5	12.3
2～3 時間未満	14.5	15.6
3～4 時間未満	19.0	17.8
4～5 時間未満	14.9	11.6
5～6 時間未満	16.4	9.9
6 時間以上	22.7	26.1
合計	100.0	100.0
	P<.01	
余暇時間帯 (平日)		
早朝	6.0	4.1
午前	16.3	12.7
昼休み	4.6	6.4
午後	21.9	13.8
夕方	8.7	8.3
夜間	36.5	48.7
一日中	6.0	6.0
合計	100.0	100.0
	P<.001	

表 4-2 生活面について (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
余暇時間の過ごし方 (平日)		
睡眠・仮眠・昼寝	13.5	22.0
テレビ・ビデオ・CD などの視聴	33.4	43.1
パソコン・インターネット	9.3	10.5
読書	5.1	5.5
テレビゲーム・囲碁・将棋	0.0	1.2
自宅での趣味・自宅でのけいこ事	7.7	3.8
散歩	5.1	2.2
園芸・家庭菜園	5.3	4.5
体操・ジョギング・軽運動	4.9	0.0
カルチャーセンターなどの習い事	1.9	0.2
パチンコ・麻雀	0.2	1.0
映画・観劇・音楽会	0.2	0.2
野球・サッカーなどのスポーツ観戦	0.9	0.2

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
ショッピング・食べ歩き	1.6	2.2
カラオケ	0.5	0.3
釣り・ハイキング・キャンプ	0.0	0.3
ドライブ・行楽 (遊園地・動物園など)	0.0	0.2
奉仕・ボランティア活動	0.7	0.2
スポーツ活動 (ゲートボール・スキー・テニス・野球・ゴルフ・サッカーなど)	6.7	0.0
社交・つきあい	1.9	1.2
健康ランド	0.2	0.3
その他	0.9	1.2
合計	100.0	100.0
	P<.001	
余暇時間の過ごし方 (休日)		
睡眠・仮眠・昼寝	13.9	21.3
テレビ・ビデオ・CD などの視聴	17.0	26.5
パソコン・インターネット	4.2	6.3
読書	4.5	4.1
テレビゲーム・囲碁・将棋	0.5	1.4
自宅での趣味・自宅でのけいこ事	6.4	3.9
散歩	5.4	2.0
園芸・家庭菜園	7.3	5.6
体操・ジョギング・軽運動	5.2	0.2
カルチャーセンターなどの習い事	1.7	0.3
パチンコ・麻雀	1.4	2.0
競輪・競艇・競馬などのギャンブル	0.2	0.0
映画・観劇・音楽会	0.5	0.8
野球・サッカーなどのスポーツ観戦	1.9	0.7
ショッピング・食べ歩き	7.3	12.0
カラオケ	0.2	0.3
釣り・ハイキング・キャンプ	1.2	1.5
ドライブ・行楽 (遊園地・動物園など)	3.8	5.1
奉仕・ボランティア活動	0.7	0.3
スポーツ活動 (ゲートボール・スキー・テニス・野球・ゴルフ・サッカーなど)	12.0	1.0
社交・つきあい	2.1	1.5
旅行	0.9	1.0
健康ランド	0.2	0.5
その他	1.4	1.7
合計	100.0	100.0
	P<.001	

ど)を行っている人の割合は合計しても「週 1 回以上」群で 17%弱、「週 1 回未満」群では 5%未満という少ない結果であった。

休日の余暇時間の過ごし方についても、平日に比べ、割合は低いものの、両群ともに「テレビ・ビデオ・CD などの視聴」の割合が最も多く、運動・スポーツなどでからだを動かす活動の割合は低い結果であり、その傾向は特に「週 1 回未満」群において顕著であることがわかる。

4) 運動やスポーツとのかかわりについて

表 5-1 をみると、運動やスポーツとのかかわりの特徴として運動・スポーツへの嗜好、体力への自信、体力の維持・向上への心がけといった項目においては「週 1 回以上」群の方が良好な値を示す割合が高いことがわかる。

スポーツ観戦行動についても「週 1 回以上」群の方が好む割合が高いものの、「週 1 回未満」群においてもその値は 6 割りを超えている結果であった。

また、スポーツ実施時間については「週 1 回以上」群で 1～2 時間未満の割合が最も高かった一方、「週 1 回未満」群の方では「その他」の割合が最も高い。これは「スポーツをほとんど行っていない」を選択した結果であり、それを除けば 1～2 時間未満と 30 分～1 時間未満が 17%前後で同程度の割合であった。

表 5-1 運動やスポーツとのかかわりについて (%)

		スポーツ実施率	
		週 1 回以上	週 1 回未満
運動・スポーツへの嗜好			
	非常に好きである	21.5	6.5
	好きである	54.4	45.5
	あまり好きではない	22.0	35.6
	好きではない	2.0	12.5
	合計	100.0	100.0
P<.001			
体力への自信			
	非常に自信がある	3.6	0.5
	自信がある	44.2	23.7
	あまり自信がない	47.6	61.3
	自信がない	4.5	14.5
	合計	100.0	100.0
P<.001			
体力の維持・向上へのところがけ			
	いつも心がけている	15.6	1.3
	心がけている	66.7	32.8
	あまり心がけていない	16.3	53.1
	心がけていない	1.4	12.8
	合計	100.0	100.0
P<.001			
スポーツ観戦の嗜好			
	非常に好きである	17.2	14.2
	好きである	57.6	49.8
	あまり好きではない	21.8	26.9
	好きではない	3.4	9.1
	合計	100.0	100.0
P<.001			
スポーツ実施時間			
	15 分未満	2.8	5.2
	15 分～30 分未満	11.0	11.0
	30 分～1 時間未満	28.5	17.2

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
スポーツ実施時間		
1～2 時間未満	35.7	17.4
2～3 時間未満	15.2	5.3
3～4 時間未満	3.5	3.0
4 時間以上	2.8	4.3
その他	0.5	36.6
合計	100.0	100.0
	P<.001	

表 5-2 運動やスポーツとのかかわりについて (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
スポーツを行った理由		
友人や知人との交流をするため	16.0	21.8
心のやすらぎを得るため	6.4	3.9
美容や健康・体力の維持向上をめざすため	44.7	23.3
心身をリフレッシュさせるため	17.2	16.9
家族とのふれあいを楽しむため	3.3	11.3
自然にふれあうため	0.9	4.7
日常生活からの解放感を味わうため	1.2	1.4
芸術や美的な関心を満たすため	0.0	0.2
社会や人のために役立つため	0.0	0.2
好奇心を満たすため	0.0	0.8
仕事や学習への新しい意欲を得るため	0.7	0.2
技術や腕前の向上をめざすため	3.1	0.4
挑戦やスリルを求めるため	0.2	0.2
楽しみや気晴らしのため	4.2	8.2
精神の修養や鍛錬のため	0.2	0.4
その他	1.9	6.2
合計	100.0	100.0
	P<.01	
スポーツを行わなかった理由		
時間がないから	57.3	40.5
近くに施設や適当な場所がないから	10.0	11.9
一緒にする仲間がいないから	5.3	8.2
どんな運動をしたらよいかわからないから	2.5	3.7
健康上の理由から	5.5	6.5
お金がないから	1.1	2.6
からだを動かすことが嫌いだから	1.4	3.9
指導してくれる人がいないから	1.1	0.2
特別な理由はない	11.4	19.6
その他	4.4	2.9
合計	100.0	100.0
	P<.001	

表 5-2 において、スポーツを行った理由をみると、両群ともに「美容や健康・体力の維持向上をめざすため」を選択している割合が多いが、さらにみると、「週 1 回以上」群においては「心身をリフレッシュするため」が 2 番目に割合が多い一方で「週 1 回未満」

群では、「友人や知人との交流をするため」の割合が高く、各項目ともに両群ともに高い割合を示しているものの順位からみればスポーツ活動に対する需要の違いが明らかになった。

スポーツを行わなかった理由についてみると、両群ともに「時間がないから」の割合がもっとも高く、その傾向は「週1回以上」群の方が高い。一方、また、「週1回未満」群においては、「特別な理由はない」が2割近くあがっている。

表5-3で一緒にスポーツをやっている人についてみると、現状では特に「週1回以上」群で「一緒に行っている人はいない（ひとりで）」を選択している人の割合が多いことがわかる。さらに今後一緒にやりたい人についてみると「夫婦で」スポーツをやりたい人の割合が高いことがわかる。

表5-3 運動やスポーツとのかかわりについて (%)

現在、一緒にスポーツをやっている人物		
一緒に行なっている人はいない（ひとりで）	37.3	16.6
夫婦で	13.5	10.0
子どもと	6.0	9.1
家族で	2.4	7.3
地域のひと	12.5	6.6
運動・スポーツ以外の場面で知り合った友人・仲間と	8.7	10.6
運動・スポーツを通して知り合った友人・仲間と	14.7	5.3
その他	3.1	4.0
運動・スポーツ活動を行っていない	1.7	30.5
合計	100.0	100.0
P<.001		
今後、一緒にスポーツをやりたい人物		
一緒にやりたい人はいない（ひとりで）	14.2	13.5
夫婦で	26.3	28.4
子どもと	5.7	8.2
家族で	11.4	15.0
地域のひと	12.8	11.1
運動・スポーツ以外の場面で知り合った友人・仲間と	10.0	13.7
運動・スポーツを通して知り合った友人・仲間と	18.2	8.4
その他	1.4	1.7
合計	100.0	100.0
P<.001		
クラブ・サークルへの所属		
所属している	46.0	8.6
所属していない	54.0	91.4
合計	100.0	100.0
P<.001		
所属クラブ・サークルの種類		
職場のクラブやサークル、同好会	5.6	17.3
地域住民（校区）を中心としたクラブやサークル	31.8	21.3
有志（活動に関心のある人）を中心に集まったクラブやサークル	31.3	34.7
各競技団体が運営しているクラブやサークル	4.0	1.3

所属クラブ・サークルの種類		
民間スポーツ施設などが開設している会員制のクラブ	19.7	8.0
大学や専門学校のクラブやサークル、同好会	2.5	2.7
その他	5.1	14.7
合計	100.0	100.0
P<.001		
所属クラブ・サークルへの満足度		
非常に満足している	11.9	4.1
満足している	73.6	48.6
あまり満足していない	13.4	39.2
満足していない	1.0	8.1
合計	100.0	100.0
P<.001		

表5-4 運動やスポーツとのかかわりについて (%)

	スポーツ実施率	
	週1回以上	週1回未満
理想的なスポーツ活動形態		
職場のクラブやサークル、同好会	5.8	8.3
地域住民（校区）を中心としたクラブやサークル	29.4	21.0
有志が集まったクラブやサークル	29.4	25.5
各競技団体が運営しているクラブやサークル	2.3	1.8
民間スポーツ施設などが開設している会員制のクラブ	10.6	10.6
大学や専門学校のクラブやサークル、同好会	1.3	0.4
障がい者が参加できるクラブやサークル、同好会	1.3	1.3
近所のひとと個人的に	6.5	12.9
ひとりで	11.8	13.3
その他	1.8	4.9
合計	100	100
P<.001		
現在行っている運動・スポーツ		
ウェイトリフティング、パワーリフティング	1.2	0.6
ウォーキング、散歩	31.0	22.7
エアロビック	3.2	1.2
弓道、アーチェリー	0.7	0.0
筋力トレーニング、エアロバイク等	5.1	0.4
グラウンドゴルフ、ゲートボール、パークゴルフ	1.2	0.8
クレー射撃	0.2	0.0
ゴルフ	9.8	8.7
サイクリング	1.0	1.2
サッカー、フットサル	2.4	2.6
少林寺拳法、日本拳法	0.5	0.0
水泳	4.4	1.2
社交ダンス、フォークダンス、民謡踊り	2.2	0.0
柔道	0.2	0.0
ジョギング、ランニング	2.7	1.0
スキー、スノーボード	1.7	3.7
スケート	0.0	0.2
ソフトボール	0.5	0.6
体操、新体操	1.5	0.0
卓球	0.7	1.0

地域におけるスポーツ振興の現状と課題

	スポーツ実施率	
	週1回以上	週1回未満
現在行っている運動・スポーツ		
テニス、ソフトテニス	4.4	2.8
登山	0.7	1.2
ドッジボール	0.2	0.6
ニュースポーツ、軽スポーツ	1.0	0.0
ボート、セーリング、カヌー	0.0	0.2
バスケットボール	1.0	0.8
バレーボール、ソフトバレーボール	4.1	1.0
バドミントン	0.5	1.6
ボウリング	0.2	2.0
マラソン	0.7	0.2
野球	2.9	1.2
ヨガ、太極拳	5.6	0.8
ラグビー、アメフト	0.2	0.0
ラジオ体操、健康体操	3.9	1.2
陸上競技	0.0	0.2
その他	2.2	2.2
何もやっていない、または今後何もやりたくない	2.0	38.5
合計	100	100
	P<.001	

クラブ・サークル（スポーツ系）への所属状況についてみると、「週1回以上」群で所属している人の割合は46.0%と約半数の人が所属している一方で、「週1回未満」群の9割以上は所属していないことがわかる。

今後の理想的なスポーツ活動形態についてみると、「有志で集まったクラブやサークル」の割合が最も高く、さらに「地域住民（中学校区）を中心としたクラブ・サークル」の割合が高い。

また、現在行っている運動・スポーツについてみると、「週1回以上」群では、一人でも手軽にできる「ウォーキング、散歩」の割合が最も高く、「ゴルフ」、「水泳」「テニス」があがっている。また、「週1回未満」群でも、「ウォーキング、散歩」の割合が高いことが分かるが、「現在、何もやっていない」の割合が

表5-5 運動やスポーツとのかかわりについて (%)

	スポーツ実施率	
	週1回以上	週1回未満
スポーツボランティアへの参加意向		
非常にそう思う	2.8	1.8
そう思う	26.3	14.7
あまりそう思わない	39.1	35.0
そう思わない	25.6	37.2
わからない	6.2	11.2
合計	100.0	100.0
	P<.001	

最も高い。スポーツボランティアへの参加意向については、両群ともに参加への意向のない人の割合が少なくないことがわかる。

5) 運動・スポーツ施設について

学校施設の一般開放については、両群ともに「知らない」を選択した人の割合が最も高く、「あまり知らない」を含めて7割前後の人々が学校施設の一般開放についての情報を知らないという結果であった。

また、これらの施設を利用した経験のある住民の割合も実施率に関わらず低いという結果であった。さらに、これから利用してみたいと思う割合も両群ともに半数という結果であり、運動・スポーツの実施状況によってはあまり差がないという結果であった。

表6 運動・スポーツ施設について (%)

	スポーツ実施率	
	週1回以上	週1回未満
学校施設の一般開放について		
よく知っている	8.3	4.9
知っている	24.1	21.5
あまり知らない	30.0	27.1
知らない	37.6	46.5
合計	100.0	100.0
		P<.05
学校施設の一般開放の利用度		
よく利用した	5.5	1.2
利用した	5.7	2.0
あまり利用していない	3.6	3.1
利用していない	85.2	93.7
合計	100.0	100.0
		P<.001
今後の学校施設の一般開放利用		
利用したいと思う	52.3	44.0
利用したいとは思わない	47.8	56.0
合計	100.0	100.0
		P<.05

6) 体育・スポーツ事業について

スポーツ教室・行事について知っているという回答した人の割合は4割前後に留まり、参加度についても、両群ともに9割近くの人々が参加したことがないという結果であった。また、これからの参加意向については「週1回以上」群においては6割以上である一方で、「週1回未満」群においては2割に留まっている。

またスポーツ教室・行事に参加する際に指導者に対して求めている内容として「仲間づくりなど周囲への気配りができる」ことが最も多い。

スポーツ教室・行事への参加料金については、両群ともに「300～1,000円」程度の割合が高い。

表 7-1 体育・スポーツ事業について (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
スポーツ教室・行事の認知度		
よく知っている	7.6	2.2
知っている	41.1	33.5
あまり知らない	33.3	35.2
知らない	17.9	29.1
合計	100.0	100.0
	P<.001	
スポーツ教室・行事の参加度		
参加したことがある	11.0	3.4
参加したことがない	89.0	96.6
合計	100.0	100.0
	P<.001	

表 7-2 体育・スポーツ事業について (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
スポーツ教室の指導者に求めること		
すぐれた技術指導ができる	27.7	15.7
仲間づくりなど周囲への気配りができる	33.0	40.3
各種スポーツ活動の計画、運営ができる	5.2	3.7
健康、体力づくりの指導ができる	26.6	34.3
運動やスポーツの理論や知識がある	5.2	1.5
指導者はいらない	0.7	1.5
その他	1.5	3.0
合計	100.0	100.0
	P<.001	
スポーツ教室・行事への参加意向		
非常に思う	5.6	1.0
思う	57.6	18.8
あまり思わない	31.3	57.7
思わない	5.4	22.5
合計	100.0	100.0
	P<.001	
スポーツ教室・行事への参加料金		
100 円以下	2.7	8.4
100 円～200 円未満	6.8	10.5
200 円～300 円未満	11.3	10.2
300 円～500 円未満	30.2	28.3
500 円～1000 円未満	33.8	28.9
1000 円～1500 円未満	10.6	6.3
1500 円～2000 円未満	1.6	3.9
2000 円～3000 円未満	2.5	2.1
それ以上	0.4	1.2
合計	100.0	100.0
	P<.001	

7) 地域におけるスポーツ活動について

総合型地域スポーツクラブへの認知度についてみると、両群ともに、まず 9 割以上の市民が情報について「知らない」を選択していることがわかる。しかし、総合型地域スポーツクラブの創設を希望する割合については 6～7 割となっており、クラブへの関わりの意向についてみると同じく 6～7 割に関わりたと思っていることがわかる。

スポーツ指導員の存在についても両群ともに知らない人の割合が高いものの、総合型地域スポーツクラブ創設時には指導者としての関わりを求めている傾向が見て取れる。

市の取り組みについては、半数以上が「分からない」を選択している人の割合が大変多く、特に「週 1 回未満」群においては 7 割近くを占める結果であった。それ以外で見ると両群とも「満足していない」の割合が少なくない傾向が見て取れる。

表 8-1 地域におけるスポーツ活動について (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
総合型地域スポーツクラブの認知度		
よく知っている	1.2	1.0
知っている	4.8	2.0
あまり知らない	39.7	28.4
知らない	54.3	68.6
合計	100.0	100.0
	P<.001	

表 8-2 地域におけるスポーツ活動について (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
総合型地域スポーツクラブの創設希望		
非常に望む	16.5	8.8
望む	57.0	53.8
あまり望まない	19.9	26.9
望まない	6.6	10.5
合計	100.0	100.0
	P<.001	
総合型地域スポーツクラブへのかかわり		
非常に思う	16.5	8.8
思う	57.0	53.8
あまり思わない	19.9	26.9
思わない	6.6	10.5
合計	100.0	100.0
	P<.001	
スポーツ指導委員の認知度		
非常に知っている	2.4	1.2
知っている	14.5	8.7
あまり知らない	24.6	16.3
知らない	58.5	73.8

表 8-2 地域におけるスポーツ活動について (%)

	スポーツ実施率	
	週 1 回以上	週 1 回未満
スポーツ指導委員の認知度		
合計	100.0	100.0
	P<.001	
スポーツ指導委員の活用		
総合型地域スポーツクラブの指導者として	41.8	32.5
学校部活動の指導者として	13.9	14.7
その他	2.2	1.2
わからない	42.1	51.6
合計	100.0	100.0
	P<.001	
K 市のスポーツ振興への満足度		
非常に満足している	0.2	0.5
満足している	10.9	7.7
あまり満足していない	25.1	13.6
満足していない	10.9	8.4
わからない	52.8	69.7
合計	100.0	100.0
	P<.001	

5. 考察

本研究では、地域住民の生活課題やスポーツ需要に即した今後のスポーツ振興のあり様について検討するために、市民のスポーツ実施状況（「週 1 回以上」群と「週 1 回未満」群）による運動・スポーツへの意識や生活実態の比較検討を行った。特に「週 1 回未満」群の現状と課題、今後のアプローチへの提案については以下のとおりである。

1) 市民の生活実態の側面から

①「週 1 回未満」群の特徴として、健康に対する心がけは比較的高く、また週 1 回以下という運動・スポーツ実施状況については運動不足であることを認識はしているものの、健康の維持増進にむけての自発的な運動・スポーツの実践にはつながりにくいという現状にある。

②生活面の特徴として「週 1 回未満」群においては「睡眠・仮眠・昼寝」など生理的に必要な時間として過ごしている割合が「週 1 回以上」群と比べて高く、また一方で「テレビ・ビデオ・CD などの視聴」に費やす割合も高い。

③運動やスポーツとのかかわりの特徴として、「週 1 回未満」群はもともと運動・スポーツをあまり好まない傾向にあり、「体力の維持・向上への心がけ」、「体力への自信」についての意識も低い傾向にあるが、スポーツ観戦の嗜好については実施群との差があまりみられない。

また、「週 1 回未満」群においては「週 1 回以上」群に比べスポーツを行った理由に「友人や知人との交流」といったスポーツ活動の社会的効果を期待している人の割合が高い。また、「週 1 回以上」群と同様に理想的な活動形態として「有志で集まったクラブ・サークル」や「地域住民を中心としたクラブ・サークル」といった活動する際の所属集団を求めるも割合も高い。

2) 地域の施策展開の側面から

運動・スポーツ環境については、両群ともに行政が展開している「学校施設開放」や「スポーツ指導委員」、現在展開されている「体育・スポーツ事業」に対する認知度が低く、実際に参加した経験も少ない。また、スポーツ教室・行事に参加する際に指導者に対して求めている内容として「仲間づくりなど周囲への気配りができる」ことが挙げられている。

現在国の振興施策として全国展開されている「総合型地域スポーツクラブ」への認知は現状において両群ともに低いという結果であったが、今後創設された場合のクラブに対する関わりについては 6 割以上が肯定的であり、「週 1 回以上」群との差はあまりみられない。

これらの調査結果から、地域でスポーツ振興施策を展開するにあたり、特に日頃から運動・スポーツを実施していない住民に対しては余暇時間の過ごし方に対するアプローチが大切であり、単なる休息のための時間や嗜好的活動に留まることなく、自己開発につながる生涯学習の時間へと自発的に変えていけるようなスポーツ活動の機会を提供することが重要になる。そのためには単に個人単位の身体活動の場を提供するだけではなく、スポーツを通した「交流活動」という観点からスポーツ活動の機会を提供することにより、スポーツ実施率の向上だけでなく、地域のコミュニティ意識を高める社会的効果にもつながる可能性がみられた。

また、今回の調査結果から地域のスポーツ振興に対し総合型地域スポーツクラブが貢献する可能性は非常に大きいと共に、今後の施策展開においては住民の手に届くかたちでこれらの情報提供がなされるよう検討していくことが重要になってくるであろう。

文献

- 1) 公認スポーツ指導者養成テキスト II PP. 24-27.
- 2) 文部科学省 HP 「スポーツ振興基本計画」
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/06031014.ht
- 3) 佐伯年詩雄「スポーツプロモーション論」(2006)
PP. 2-15